英語科　学習指導案

日　時　平成 17 年 9 月 27 日（火）５校時
学　級　１年２組（男子 19 名 女子 17 名 計 36 名）
場　所　１年２組教室
授業者　石亀　典子（T1）　・　荒澤　和子（T2）

1　単元名　　Unit 6　　南半球からのメール

2　単元について

(1) 教材観

本単元は、オーストラリアに住むマークの姉ベッキーについて弟のマークが紹介したり、マークと由美がベッキーとその夫次郎について対話をすることによって一般動詞の 3 人称単数現在形を導入する単元である。言語材料としては生徒が難しいと感じる文法事項のひとつであるとともに、しっかりと身につけさせなければならない事項でもある。難しさがある反面、身近な人について紹介をしたり、対話をしているので、言語活動が行いやすいものとなっている。

また、オーストラリアに住むベッキーとその夫・次郎についての対話から、オーストラリアの季節が日本と逆であることやオーストラリアで日本語が学ばれている様子が分かり、他国への理解を深められる単元となっている。

「人を紹介する」という言語活動を行うことによって、本単元のねらいである一般動詞の 3 人称単数現在形を理解し表現する力を養うのに適しているとともに、初めて他国について触れている教材であるので、国際理解を深められると考え、この単元を設定した。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒は、音読の場面ではやや声が小さくなりがちではあるものの、落ち着いて授業に取り組み、理解しようと努力している。他とのコミュニケーションがスムーズに行えず、支援の必要な生徒が何人かいるものの、ほとんどの生徒が積極的に音読練習や言語活動に取り組んでいる。しかし基本的な家庭学習習慣が身に付いておらず、予習としての単語調べや復習としての自主学習ノート提出が滞っている生徒が男子に半数いるため、基礎・基本がなかなか定着していない生徒も多い。そのため基礎・基本をしっかりと身につけさせるために、既習事項を繰り返し練習させるためのウォームアップを毎時間取り入れたり、新出事項を学習する時には反復練習を多くとるような指導過程とし、T-T を活かしながら、個々の学習活動が確実に行われ、基礎・基本が定着しているかどうかをまめにチェックすることを心がけている。さらにチャレンジタイムを活用して、どうしても学習に遅れがちな生徒には声をかけ、学習方法を教えながら補充してきている。

1 学期期末テストの段階では、Be 動詞の現在形の使い分け、疑問文とその応答文までの範囲であったので、おおむね定着させることができたが、その後の一般動詞や疑問詞が含まれた疑問文からは、少しずつ苦手意識を持ち始めている生徒もいるので、2 学期はウォームアップ等での復習や、新出事項の導入前の既習事項のまとめ等をしっかりと行い、より一層基礎・基本の定着を図っている。

(3) 基礎・基本の定着

本単元における基礎・基本は、「一般動詞の 3 人称単数現在形の形・意味・用法を正しく理解し、表現できること」であると考える。既習の Be 動詞と一般動詞や代名詞の復習を行うだけでなく、単元の終わりでも動詞についてのまとめを行うので、本単元だけでなく既習事項もまとめ、確実に定着させることもできると考えられる。

本単元における基礎・基本を定着させるための手立てとして、授業では音声から導入して、音読練習の回数を暗唱してしまうほど多く設定したい。さらにその音読から身についた表現をもとに、基本文を定着させるための言語活動を多く取り入れていきたい。言語活動としては、ただ文法事項を暗記するという形ではなく、身近な人を紹介したり、身近な人を話題にして問答したり、聞いて知り得た情報をまとめてその人を紹介したりという、より実践的な言語活動を考えている。これらのより実践的な言語活動を通して、より一層基礎・基本の定着を図っていきたい。

また家庭学習では今までの形を継続させ、音読・基本文練習・ワークを全員が確実に行われるように、こまめなチェックを行おうと考えている。

3　単元の目標

(1) オーストラリアに住む登場人物についての紹介文や対話を理解することができる。また、オーストラリアと日本の季節が逆であることや、オーストラリアで日本語が学ばれていることを知る。

(2) 一般動詞の 3 人称単数現在形を含む文の形・意味を理解し、それを用いて人について簡単な紹介をすることができる。

(3) 一般動詞の 3 人称単数現在形を含む文の形・意味を理解し、それを用いて人について尋ねたり、答えたりすることができる。

(4) 目的地までの乗り物での行き方を尋ねたり、教えたりすることができる。

4　単元の評価規準と評価計画・指導計画（８時間扱い）

時	評価規準 / 指導目標	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
		(1)積極的に言語活動に取り組み、コミュニケーションを図ろうとしている。	(1)正確な発音や適切なイントネーションで本文を音読することができる。 (2)一般動詞の3人称単数現在形を正しく用いて、他者についての簡単な紹介をすることができる。 (3)一般動詞の3人称単数現在形を正しく用いて、他者について問答することができる。 (4)道案内の尋ねたり、答えたりする会話をすることができる。	(1)まとまった英文の大切な部分をおおむね聞き取ることができる。 (2)本文の内容について大切な部分をおおむね読み取ることができる。	(1)一般動詞の３人称単数現在形（肯定文）の形・意味・用法を理解している. (2)一般動詞の３人称単数現在形（疑問文とその応答）の形・意味・用法を理解している。 (3)一般動詞の３人称単数現在形（否定文）の形・意味・用法を理解している。 (4)オーストラリアの季節が逆であることや日本語が学ばれていることを理解している。
1	①マークの姉ベッキーについての簡単な紹介文を聞いて内容を理解することができる。 ②一般動詞の三人称単数現在形の形を理解し、音読することができる。		②(1)	①(1)	
2	一般動詞の三人称単数現在形を用いて、他者について簡単な自己紹介をすることができる。	(1)	(2)		(1)
3	①ベッキーについての対話内容を理解することができる。 ②一般動詞の三人称単数現在形（疑問文と応答）の形を理解し、音読することができる。		②(1)	①(2)	(4)
4	一般動詞の三人称単数現在形を用いて、他者について尋ねたり、答えたりすることができる。	(1)	(2)		(2)
5	①ベッキーについての対話内容を理解することができる。 ②一般動詞の三人称単数現在形（否定文）の形を理解し、音読することができる。		②(1)	①(2)	(4)
6	①Be動詞と一般動詞の用法について理解している。 ②尋ねて得た情報をもとに人を紹介することができる。		②(2)		(1)(2)(3)
7 本時	①簡単な自己紹介のスピーチを聞いてポイントを理解できる。 ②聞き取ったことをもとに、既習事項を用いて人を紹介できる。		②(2)	①(1)	
8	乗り物での行き方を尋ねたり、教えたりできる。	(1)	(4)		

5　本時の計画

(1) 目　標

①　簡単な自己紹介のスピーチを聞いてポイントを理解できる。

②　聞き取ったことをもとに、既習事項を用いて他者に紹介できる。

(2) 指導の構想

本校英語科でとらえる基礎・基本は「4 技能をバランス良く使いこなす力」「簡単な英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度」と考えている。そのために全指導過程では、学習課題を明確に提示し、本時の学習内容が定着するよう、繰り返し練習する場面を設定している。また導入では、前時の復習となるドリルも取り入れるようにしている。なお音読は 4 技能の土台として重点としている。具体的には T-T でもあるので、一人でしっかりと音読できるかを確認するようにし、家庭学習でも音読練習を行わせている。

本時は Unit6 をもとにしたリスニングにポイントをあてた教材であるが、それにとどまらず聞いた内容をもとに、他者を紹介するところまで取り組ませたい。このようにそれぞれの技能を合わせて使いこなす活動を通して、コミュニケーションを図るために必要な力をつけさせていきたいと考えている。

また年間を通して T-T のため、常によりきめ細やかに生徒に目をかけ、手をかけることができる。この利点を活かして、授業内でのこまめな学習内容定着の確認を行っている。また言語使用場面を音声導入で一目で分かりやすく行うことができるので、その分繰り返し練習する時間の確保が可能となっている。本時でも T1 主体で授業を進めながら、Option の活動からは T1・T2 で学級を分けて担当し、個々の学習活動がスムーズに行われるように進め、評価を行おうと考えている。

(3) 家庭学習との連携

ユニットのパートであれば、課題 1(予習）は単語調べ・課題 2(復習)は自主学習ノートへの音読練習（回数記入）ディクテーション間違い練習・ワークとなっている。本単元はパートではないので、課題１はこの単元に合わせたものとしている。（下の表の ABC は授業内での評価を表す）

	A	B	C
課題１(予習)	自己紹介に必要な表現の確認。(前時に指示した課題）		
課題２(復習)	二人の紹介文を暗唱できるまで音読する。	ケイトの紹介文を暗唱できるまで音読した後、マイクの紹介文を音読する。	ケイトの紹介文を見ながらすらすら読めるまで音読する。
	ディクテーションの文を 2 回以上練習	ディクテーションの文を 3 回以上練習	ディクテーションの文を 4 回練習

(4) 具体の評価規準

	具体の評価規準		
	A（十分満足できる）	B（概ね満足できる）	C（努力を要する生徒への手立て）
理解の能力	Step1 の問題にほぼすべて正解することができる。（12 問中 10 問以上）	Step1 の問題におおむね正解することができる。（12 問中 8 問以上）	間違った文を繰り返しながら、ポイントとなる語句を確認する。
表現の能力	聞き取った自己紹介をもとに、内容のキーワードを見ながら、正確に他者に紹介することができる。	聞き取った自己紹介をもとに、内容のキーワードを見ながら、ほぼ正確に他者に紹介することができる。	項目にそって 1 文ずつ、口頭練習の援助をし、発表の支援をする。

(5) 展開（Ｓｔｅｐ２）

	学習内容	学習活動	指導上の留意事項	評価の観点・方法
導入 10分	1　挨拶 2　Warm-up Q&A 3　学習課題の把握	1　英語で挨拶をする 2 (1) ペアで Q&A をする (2) 教師との Q&A 3　学習課題を把握する	・T1,T2 とも机間指導をして支援する ・T1,T2 に分け、短時間で行う ・既習の自己紹介表現を確認しながら進める	
	学習課題：自己紹介で聞いた内容をもとに、その人を英語で紹介しよう			
展開 25分	4　Step1 5　Step2 6　Option	4 (1) CD を聞いて、教科書に答えを記入する (2) 答えを確認する 5 (1) CD を聞いて、教科書に答えを記入する (2) 答えを確認する 6 (1) Step1 の情報をもとにケイトの紹介文をまとめる (2) 紹介文の口頭練習をする(全体・ペア) (3) 教師の前で発表する (4) 全体の場で何人か発表をさせる	・T2 は机間指導をして支援 ・間違った生徒が多い場合は、英文をもう一度繰り返し、ポイントとなる語を確認する ・T2 は机間指導をして支援 ・Yes, No で終わらず、Yes, she does. のような形も確認する ・口頭で使う表現を確認する ・3 単現の s の発音にも留意させる ・目指したい発表の規準を明らかにする。 ・聞き手に伝えると言う意識を持たせて、絵を示しながら練習・発表させる ・学級を２つに分けて、T1,T2 のどちらかが評価する ・ケイトが終了したペアは、ケイトの紹介文をノートにまとめさせ、その後トムについても同様に進めさせる	[理解の能力] Step1 の問題におおむね正解することができる。（12 問 8 問以上） （挙手確認） [表現の能力] 聞き取った自己紹介をもとに、キーワードを見ながらほぼ正確に他者へ紹介することができる。（発表）
終結 10分	7　学習課題のまとめ 8　学習評価 9　家庭学習との連携 10　挨拶	7 (1) ケイトの紹介文を一斉暗唱する (2) 紹介文から 1 文ディクテーションをする 8　自己評価をする 9　本時の復習（課題２）と次時の学習内容と予習（課題１）の確認をする 10　英語で挨拶をする	・学習課題を確認 ・自己評価表は事前に配布	